

ミステリ読書案内

2023. 7. 23 発行元

第500号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

『ミステリ読書案内』500号発行記念特集

これまでを振り返って

この『ミステリ読書案内』も500号になった。500号の記念として、『ミステリ読書案内』のこれまでを振り返ってみよう。連載開始当初、目玉として考えていた作家ごとの『ベスト表』を中心にして…。

約三年半で500号

この『ミステリ読書案内』を開始したのは2019年の12月から。それから三年半ちょっとかかって500号に到達した。書き始めた当初は200号くらいまでの構想しか持っていなかったのが、500号まで行けるとは想定はしていなかった。書いているうちに軌道に乗っただけという感じである。

私なりの各作家の『ベスト表』をメインにして記事を書こうと計画していたので、150号くらいまではスムーズに進んだ。それ以降、何を題材に展開しようか悩むことが多くなっていった。

「どの順番」・「代表作」

『ベスト表』の次に設定したのは『どの順番に読むか』というテーマ。その後は『代表作』となった。『代表作』は作品数が少ない作家でも取り上げやすいし、私がほとんど読んでいない作家でも3冊読めば書けるので、長い期間続けることが出来た。まあそれでも、まだ取り上げていない作家も多いのだけれども。

右に今まで取り上げてきた『ベスト表』を並べてみた。見てわかるように、ここには東野圭吾もないし、綾辻行人、島田荘司、折原一もない。

(『代表作』では取り上げているけれども。) 江戸川乱歩もないし、松本清張、大藪春彦、高木彬光もない。その作家の主要な作品を読みこなしていないと『ベスト表』は作れないということ…。

一人の人間が読みこなせる本の数には限界がある。好みの問題もあるし…。女流作家が少ないのも私の読書の顕著な傾向でもある。その理由は以前述べた通りである。「本格もの・パズラー」好み、「正統派ハードボイルド」好みという特徴がよく出ている。

「目次」「索引」があるといい…

500号も続けていると自分でも既にも書いたものと、まだ書いていないものの区別が曖昧になってくる。「目次」とか「索引」のようなものがあればよいのだと思うが、作り始めればかなりの分量になってしまう。迷うところではある。

幸い今は「検索」機能があるのであればそれを利用している。最初の方の号はそれを意識していなかったのが、検索に引っ掛からないものもあるが、途中からは主要な名前、語句は「Key語句」に示すようにしたので、検索しやすくなったはずだ。お読みの方々にも何とかうまく利用していただきたい。

これまでの「ベスト表」

日本作家篇

今野 敏	第 1 号
西村京太郎	第 4 号
結城 昌治	第 7 号
鮎川 哲也	第11号
赤川 次郎	第14号
内田 康夫	第17号
仁木 悦子	第22号
はやみねかおる&松原秀行	第23号
横溝 正史	第24号
渡辺 裕之	第32号
泡坂 妻夫	第36号
山村 美紗	第41号
松岡 圭祐	第47号
辻 真先	第51号
栗本 薫	第56号
和久 俊三	第57号
都筑 道夫	第61号
陳 舜臣	第67号
佐伯 泰英	第70号
土屋 隆夫	第71号
島田 一男	第76号
斎藤 栄	第80号
梓 林太郎	第82号
津村 秀介	第85号
木谷 恭介	第88号
吉村 達也	第94号
鯨 統一郎	第98号
天藤 真	第103号
岡嶋 二人	第107号
草野 唯雄	第111号
太田 蘭三	第116号
南 英男	第121号
堂場 瞬一	第126号
森村 誠一	第131号
深谷 忠記	第142号
小林 泰三	第192号
中山 七里	第244号
清水 義範	第339号

1000号は…

500号に到達したので、次は1000号を目標にしたいところだが、それは簡単ではない。今後『ミステリ読書案内』以外の取り組みを開始しようと思っているし、新刊を読むペースも落ちると思うので、どうしても月10号を維持するのは無理だ。当面は、『ベスト表』を再掲する形で続けてみようと考えている。よろしくお祈りします。

500号到達!